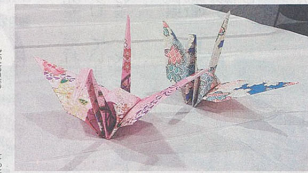


新聞で読ぼう

千羽鶴 世界に羽ばたく

アメリカのオバマ大統領が広島市を訪れたときに贈った折り鶴が話題になっています。きっかけとなったのは、原爆による白血病のため、12歳で亡くなった女の子の物語。「病気が治りますように」と折り始めた鶴は今、平和を願うシンボルとして世界に羽ばたいています。(川合道子)



①オバマ大統領が小中学生へ手渡した折り鶴。②大統領の演説に立ち会った、折り鶴を受け取った子とたち。広島市の中島小学校で

平和願い

オバマ大統領が手作り



アメリカのオバマ大統領が広島市の平和記念公園を訪れた五月十七日、近くの中島小学校に通う六年生五人

人たちの近くで演説を直接聞きました。大統領が被爆者の方を見ても、語りかけるように演説していたのが心に残りました。と竹本沙代さん。福岡拓巳君は「ぼくたちは平和の大切さを未来に伝えるメッセージ」と気持ち新たにしました。五人の小学校では毎年夏に全校で千羽鶴を作り、原爆の犠牲になった児童や教師の慰霊碑にさげています。鶴の折り方が分からない一年生は六年生が教えています。と、亀ひなたさん。記者が訪ねた日は大統領から鶴をもらったお礼にと、アメリカに贈る千羽鶴の一部を折りました。亀田悠真君は「ぼくたちにとって、折り鶴は広島シンボルのようなの。折るときは特別な気持ちができます」と話してくれました。

なるほどランド

2 像の少女 治ると信じ 折り続けて

六月中旬、平和記念公園に立つ「原爆の子の像」の前では、修学旅行で訪れた小中学生たちが、色とりどりの千羽鶴をささげていました。台座の上で、折り鶴を高く掲げる少女のブロンズ像。モデルになったのは、佐々木禎子さんという女の子です。二歳で原爆に遭い、十年後の小学六年生のときに突然、白血病を発症。八カ月後の一九五五年十月、短い生涯を終えました。まだ十二歳でした。



禎子さんは病院のベッドの上で「鶴を千羽折ると病気が治る」と信じ、薬の包み紙などで鶴を折ったといいます。きっかけは、見舞いの品として病院に届いた千羽鶴。贈り主は愛知淑徳高校(名古屋市)の佐々木禎子さんモデル建てられた「原爆の子の像」広島市の平和記念公園で。

ノートやはがきに変身

愛知淑徳高校の生徒たちが広島に千羽鶴を贈った約六十年がたちました。病床で鶴を折り続けた禎子さんの生涯は本などで世界に広まり、千羽鶴は平和のシンボルとしても知られるようになりました。高橋さんは「千羽一羽が小さな種となり、オバマ大統領の鶴にもつながったのかなと思うと、思いがけないのですが、

本などにうれしく思います」と笑顔で話しました。原爆の子の像には、今も日本や世界各地から千羽鶴が寄せられます。その量は、一年間で十にも上るそうです。ところで千羽鶴は、その後どうなっているのでしょう。「手作業で色別に分け、千羽鶴再生紙」に生まれ変わっています」と一般社団法人「千羽鶴末



③音を振り返る高橋登代子さんと中村ゆきあさん。中村さんは愛知淑徳高校の卒業生たち。広島市中で、④折り鶴を贈った当時の写真



3 年に10

ちが広島に千羽鶴を贈った約六十年がたちました。病床で鶴を折り続けた禎子さんの生涯は本などで世界に広まり、千羽鶴は平和のシンボルとしても知られるようになりました。高橋さんは「千羽一羽が小さな種となり、オバマ大統領の鶴にもつながったのかなと思うと、思いがけないのですが、

来プロジェクト」事務局長の吉清さん(左)。原爆資料館で入館者に配られるポストカードをため、レターセットやノート、名刺などに「変身」。四月に広島市であった先進七カ国の外務大臣が集まるサミットでは、関係者たちが使うポート用紙やメモ帳にもなりました。

平和への願いがこめられた千羽鶴は、姿を変えてもおお、世界に羽ばたき続けているのです。